

TOPIC

福島県近代医学教育150年顕彰記念シンポジウム開催

令和4年6月11日(土)、ザ・セレクトン福島において「福島県近代医学教育150年顕彰記念シンポジウム」が本学と医学部同窓会の共同主催で開催されました。

明治4年9月に本学の淵源(ルーツ)である白河医術講議所が設置されて150年となる節目を迎え、近代医学教育150年の歴史を振り返るとともに将来を展望する契機となることを目的としたものです。

台湾大学の倪衍玄医学部長によるオンライン記念講演では、須賀川医学校出身の後藤新平が台湾総督府民政局長官として台湾医学校を設立したことや、その第2代校長高木友枝(現いわき市出身)が後に“台湾医学・衛生の父”と呼ばれたこと等の歴史が紹介されました。

福島国際研究教育機構

最重要2分野で中核を担う決意

竹之下誠一理事長兼学長による「福島県立医科大学の挑戦」と題した基調講演では、来年1月に設立予定の福島国際研究教育機構を巡り、本学として「放射線科学・創薬医療」「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」の両分野で中核を担い、最先端のがん治療や災害医療などを通して貢献する決意を述べました。



台湾大学倪衍玄医学部長によるオンライン記念講演での質疑応答風景

大戸斉総括副学長と大平弘正教授を座長とするテーマセッション「地方医療と先進医療にどう貢献するか」では、文部科学省高等教育局森田正信審議官が「福島国際教育研究拠点構想と福島県立医科大学に期待するもの」と題して特別発表を行い、「期待が非常に高い。機構での研究を推進する上で軸になってほしい」と求め、国として機構の構想実現を確実に進める考えを示しました。

また、竹石恭知附属病院院長は「循環器領域における高齢化と先進医療」、鈴木弘行医学研究科長は「福島県立医科大学が目指すがん治療」、藤森敬也医学部長は「難治分婉への対応」について発表し、併せてパネル

ディスカッションが行われました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策のため会場入場者を50人に制限しましたが、オンラインで職員、学生、保護者など約200人が参加し成功裡に閉幕しました。



竹之下誠一 理事長兼学長



本学附属病院高度救命救急センター「12誘導心電図伝送システム」導入のお知らせ

令和4年6月13日(月)、本学附属病院は、「12誘導心電図伝送システム」を福島県の補助を得て県内で初めて導入しました。

高度救命救急センターが運用するドクターヘリへの導入により、当院到着までに患者さんの

心電図診断及び病院の受入準備を可能にし、患者さんの病院到着から治療完了時間(Door To Balloon Time)短縮を目指します。

また、治療開始までの時間短縮による救命率向上に加え、今回導入したシステムでは心電図

伝送のほか、写真や10秒程度の動画の送信もできるため、交通事故などの現場でも活用が見込まれます。

詳細はこちらから ▶▶▶



01 別科助産学専攻募集にあたって 寄稿

助産師の仕事を一言でいえば“生まれる”に関わる職業です。妊娠期から産褥・新生児期のマタニティサイクルおよび女性のライフサイクル全般にわたる助産ケアを行います。正常な経過には、助産師が独自に関わることができます。

また、助産師には開業権も認められていますので、助産所の開業や出張助産師など、地域に密着した活動を展開することができます。

別科助産学専攻では、1年間で助産に携わる専門職としての基礎を学修します。その中核となるのは、対象に応じた助産診断/技術学の修得です。例えば、分娩の場面で助産師は、助産診断力並びに技術力を発揮して母子共に安全な経過となるよう最善を尽くします。

分娩に関わる全ての人の満足度を上げること

しかし、助産師の役割は、それだけではありません。分娩経過全体に関わることを通して、分娩の質を上げ妊産婦や家族、関係する全ての人たちの満足度を上げることも重要な役割です。

これは人生の質(QOL)に直結しており、これ



「整備中の助産師養成施設(仮称)」

こそが助産師に関わる真の医療と考えます。そして、当然、助産師自身の満足感、充実感にも繋がります。

助産師に関わる場面は、その人の人生のごく一部、短い時間です。その一瞬一瞬に、その人をどれだけ幸せにできるか、そして、助産師自身もどれだけ幸せと感じられるか、このことが助産師としての価値であり醍醐味であるといえるでしょう。

人類の未来を担う子どもたちを皆で育てる一翼を担う

2011年の東日本大震災で、福島県の出生率は一時的に低下しました。その後、震災前の状態に回復したものの、未だ課題は山積しています。

“人類の未来を担う子どもたちを皆で育てる”その一翼を担う助産師となるべく別科助産学専攻で学び、本学修了生として、社会に貢献できる助産師になることを心から願っています。

助産師養成課程設置準備室長 太田操教授

別科助産学専攻
募集要項
詳細はこちら



※次号は、大学院看護学研究科博士前期課程看護学専攻助産師コース(仮称)について、三瓶まり教授の寄稿を予定。

NEWS



助産師養成2課程を詳しく紹介した動画を作成いたしました。この機会にぜひご覧ください。



02 福島民報社と本学が連携した健康講座がスタート



福島民報社と本学が連携した健康講座が令和4年6月27日(月)、28日(火)と連続開催

でスタートしました。

本学保健科学部理学療法学科、作業療法学科監修のもと、科学的根拠に基づいた運動や生活に必要な作業を紹介した企画「1日1動!」(民報紙面、同公式YouTubeで掲載中)の「リアル体験教室」として開催するものです。

理学療法学科高橋仁美教授、柴喜崇教授が、それぞれ運動は健康寿命を延ばす“薬”に

なると講義し、椅子に座ったままできる簡単な体操などを実演形式で指導しました。

今後も県内各地で開催を予定し、県民の皆様の健康増進に貢献してまいります。

1日1動!は
こちらから



03 県民健康セミナーにて本学教員が講演

令和4年6月26日(日)に福島民報社主催の「健康長寿県の実現と認知症に理解を深める県民健康セミナー」が摺上亭大島で開催されました。

本セミナーでは同紙でリレーエッセー「医心伝心」を連載している本学病態制御薬理医学講座下村健寿主任教授と同講座の前島

裕子特任教授が講演を行いました。

下村健寿主任教授が「なにが悪いの? どうしたらいいの? 糖尿病~福島の健康を考える~」と題して糖尿病の症状や対策、食生活のバランスの重要性について説明を行い、前島裕子特任教授がオキシトシンをテーマに身体の健康と幸福度の関係性について



説明し、二人のトークセッションで締めくくりました。